

議会広報特別委員会視察研修報告

- 日 時 平成 30 年 1 月 24 日（水）～1 月 25 日（木）
- 研修先
 - ・ 専門講師による議会だより編集の基礎研修（場所：株会議録センター）
 - ・ 東京都 瑞穂町議会
 - ・ 東京都 あきる野市議会
- 目 的
 - (1) 議会だよりの編集について
 - (2) 議会だよりリニューアルについて
 - (3) 議会だよりにおける市民と繋がりのある記事について

議会広報特別委員会では実践的、実務的スキルを身につけるため、議会だよりの編集の充実に向けた全体研修と、全国的にも先進地である 2 市町議会の編集担当委員会を訪問した。

○専門講師による議会だより編集の基礎研修（場所：株会議録センター）

株会議録センターでは全体研修として、編集の基本に関する研修を受けた。まず「議会だより編集を学ぶ」と題して表記の統一、構成のコツ、見出しのつけ方と効果、議会が身近に感じる企画物などについて具体的な事例を挙げながらの講義であった。

表記の統一については、表記は時代と状況により変化することであるが、統一が大前提である。また、英語のカタカナ表示、固有名詞については特に注意を要する。校正作業は「間違いは必ずある」を前提に進めることが基本である。見出しと本文の表記の統一性、ダブルチェックも必要。さらに当市議会広報委員会では行うことが少ないが、音読も効果的である。

また、金額の誤りチェック、関連の記事との整合性、年・年度、色使い、写真の選択についても注意を要する。編集作業の「校閲・校正」は文章や紙面の品質を上げるための重要な作業との説明があった。

最後に「紙面クリニック」として、牧之原市議会だよりの最新号を基に、紙面のページに従って具体的な課題についての指摘を受けた。見出しのつけ方等の工夫、色使い、全体の記事配置、写真の配置や本文への導入方法（アイキャッチの効果）、写真のサイズ等。

また、文字については「読まれ度アップ」のための方法等の説明があった。ジャンプ率を考え、文字にメリハリをつける。本文の内容を見出し引用する、見出しの分かりやすい表記等、すぐにでも読者が読んでもらえる紙面改良に活用できる内容であった。

○東京都 瑞穂町議会

議会だよりのリニューアルは平成 26 年 11 月号に実施。それまでの紙面も清新であったが、リニューアル後は市内各所で活躍する市民を取り上げ、人物の顔をクローズアップすることに変えている。特に市民や団体の普段の顔に焦点をあてたものを表紙としている。議会だよりの名称も変更した。発行日は定例会閉会后 40 日以内の発行を目指しているとしており、牧之原市議会だよりに比べ、発行まで 5~10 日短くなっている。委員会構成は副議長が委員長を務め、各委員会から選任している。紙面の写真は委員、事務局職員が撮影するが、当局へ依頼することもある。また各ページ必ず 2~4 枚の写真が入っていた。

○東京都 あきる野市議会

議会だよりのリニューアルにあたり、調査研究グループを構成。全国から議会だよりの取り寄せ、庁舎ロビーに展示、投票によるアンケートを実施した。まず「手に取ってもらえる表紙づくり」として、「表現方法や読み易さの工夫を目指した」としている。毎号編集会議では興味を引く特集と表紙、ターゲットを絞った特集（子育てママ・若手農業者・大学生・消防団員・スポーツ指導者・外国人等）の企画をしている。この取材や企画は議会と市民との距離を近くする効果がある。表紙は特集とリンクさせることで読者が内容に踏み込んでいくことができる。一般質問はホワイトスペースを確保し、読みやすいようにした。また、読み進むための導線も重視している。裏表紙も閉じてそこから本文に入っていけるよう目に残ることを狙った構成とした。議案審議、一般質問については特に市民に知らせるという点で重要であると考えている。

リニューアルに向けたポイントとして、行政用語を使用しない。議会からの知らせたいことと市民の知りたいことの差を埋めていく。議会が読んでほしい量と市民が読める量の差を埋めていくこと等の説明があった。

今回の研修は実践的であり、今後の編集作業において実務に有益な内容であった。議会の様子が分かりづらいと言われ、議員活動の一層の充実と議会の見える化が求められている。その役割としての議会だよりの発行については大きな使命や役割がある。委員会ではこの視察研修を基に、紙面の充実とリニューアルに向けての方策を議論していきたい。

